

東アジア研修旅行 成都重慶の旅



2025 年 10 月 20 日 ~ 24 日
日本退職教職員協議会 生きがい支援協会共催

旅の足跡

日 程：2025 年 10 月 20 日～24 日 4 泊 5 日間

訪問地：中国（成都・重慶）

添乗員：沈雪軍

（以下、人名敬称略）

10 月 20 日（月）

14:30 成田空港 T1 集合 荷物託送
15:50 再集合 出国 搭乗へ
16:20 CA460 便にて成都へ出発 機内食
22:00 成都天府国際空港着 入国へ
22:40 ガイドと合流 市内へ
【成都ガイド】：張小素（女性）
23:45 成都錦江飯店 チェックイン

10 月 21 日（火）

07:00 モーニングコール
09:30 成都パンダ繁育研修基地へ
10:15 成都パンダ繁育研修基地着 観光
和歌山県から中国へ返還したパンダと再開
12:00 昼食レストランへ
12:30 昼食
13:40 武侯祠へ
14:15 武侯祠見学 中国高校生の団体と遭遇、かなり混雑していました。
16:50 錦里商店街散策
17:00 陳麻婆豆腐本店へ
17:15 陳麻婆豆腐着 夕食
18:20 川劇場へ
19:00 川劇鑑賞

20:15 ホテルへ
20:30 ホテル着 お休み

10月22日(水)

06:30 モーニングコール 荷物出し 朝食
07:40 チェックアウト
07:50 成都東駅へ
08:40 成都東駅着 成都の張ガイドとドライバーとお別れ
「高鉄」乗車チェックイン
09:54 G8501 便にて重慶へ
11:45 重慶北駅着 ガイドと合流
【重慶ガイド】： 漆曉笛（男性）
十八梯商店街を散策しながら昼食会場へ
昼食：地元料理をご賞味
13:30 大隧道惨案旧跡（防空壕跡）
へ
13:45 大隧道惨案旧跡（防空壕跡）
記念館運営組織の会議室着
現地交流メンバーと懇談
当時の経験者の話を聞き、
最後、平岡団長より、
慰問金を手渡す



【参加原告団名簿】

中国民间対日索賠联合会重庆

分会

重庆大轰炸受害者民间対日索
賠原告団

姜遣福 男 70 岁 会長・団長
助理



栗远奎 男 92 岁 団長
陈桂芳 女 93 岁 ,
曾宪君 女 87 岁 ,
王邦莉 女 87 岁 ,
张芳王 女 84 岁 ,
栗道暖 女 76 岁 ,
侯岩琳 女 71 岁 ,
钟传凤 女 70 岁 ,
余关萍 女 70 发 ,
侯 玉 女 64 岁 ,
邹光明 男 75 岁。

14:30 大隧道残案旧跡（防空壕跡）記念館へ

慰霊参加、花輪を献上 記念撮

影後見学

15:40 三峡ダム博物館へ

16:15 三峡ダム博物館着 抗日戦争記念館を見学

16:45 記録映画鑑賞へ 17 時より上演
時間 15 分

17:18 三峡ダム博物館の広場にて記念
撮影

抗日戦争勝利記念碑へ

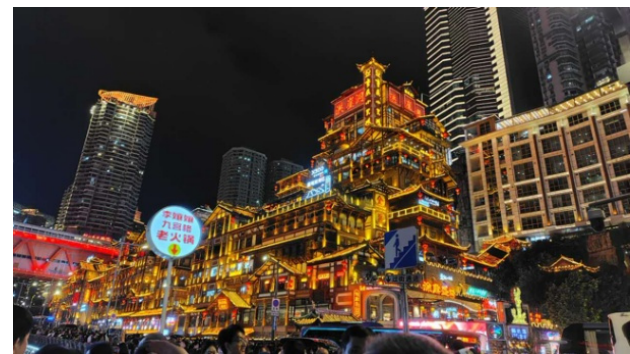
17:30 抗日戦争勝利記念碑着 広場にて自由行動

18:00 洪崖洞へ

18:30 重慶火鍋店着 地元名物料理を
賞味

19:20 洪崖洞夜景鑑賞 ホテルへ

20:45 ホテル着 チェックイン



10月23日(木)

07:00 モーニングコール
09:30 出発 重慶抗戦遺跡博物館へ
10:10 重慶抗戦遺跡博物館着
博物館学芸員より紹介
11:25 昼食会場大融城へ
12:10 昼食レストラン着 関東飲茶料理を賞味。
13:20 四川外国語大学へ
14:10 四川外国語大学着 日本語学院会場へ

【教師】

陈可冉 副院长
吴 扬 院长助理
丁世理 研究生教研室主任
村濑隆之 日本外教

14:50 交流開始 双方代表挨拶 学生交流 記念品交換

【学生】

- 1、 2024 级日语语言文学 袁杰彦
- 2、 2024 级日语语言文学 黄彦琪
- 3、 2024 级日语语言文学 王志文
- 4、 2024 级日语语言文学 潘敏
- 5、 2024 级日语语言文学 姜顺华
- 6、 2024 级日语笔译 甘雨浩
- 7、 2024 级日语笔译 黄晓瑜



- 8、 2024 级日语笔译 李鑫
- 9、 2024 级日语笔译 岳俊吉
- 10、 2024 级日语口译 匡璐瑶
- 11、 2024 级日语口译 李妍蕾
- 12、 2024 级日语口译 屈仁程
- 13、 2022 级本科生 廖俊杰



- 16:30 ホテル方面へ
- 17:00 ホテル周辺の繁華街にて自由行動
- 17:45 夕食レストラン「大融城店」へ お別れ夕食会
- 19:15 ホテルへ

10月24日(金)

- 08:00 モーニングコール 朝食
 - 10:15 フロント集合 チェックアウト
 - 10:30 重慶江北国際空港へ
 - 10:50 空港着 漆ガイドとドライバーにお別れを告げ、チェックインへ
 - 13:05 CA433 便にて帰国の途へ 機内食
 - 18:15 成田空港到着 ロビーにて最後のご挨拶 解散
- お疲れ様でした。

感想

歩いて、歩いて、登って降って

天候にも恵まれ、今回も有意義な旅となりました。同行の皆様、沈さん、尾崎さん、ありがとうございました。

盛都ではパンダの基地を、重慶では十八梯商店街や抗戦遺跡博物館（蒋介石の事務所兼居住区）などを歩いて、歩いて、坂や階段を登り、登れば下るで、本当によく歩き、とてもよい運動になりました（笑）

今回のメインの一つ、重慶大爆撃の防空壕跡（地下大隧道）には市街地のビルの中から入って行きました。つまりは、当時も一般市民が暮らす街中にあったということですね。そこを日本軍が無差別に爆撃したのだと、今のガザと重なり胸が痛みました。重慶爆撃裁判原告団との交流は時間が短く、わざわざ集まって下さった原告の方全員からお話をうかがうことができず、残念でした。

これまで、この研修旅行に度々参加し、記念館、資料館、戦跡等を見学しましたが、広い広い中国では点をたどっただけにすぎません。でも、点にもならない日本軍が侵略行軍した多くの街、村で無辜の人々に数え切れない蛮行をふるい、血を流したこと、決して忘れてはいけないと思っています。



ホテル前の公園で太極拳を楽しむ人たち



じゃれ合う子パンダ

盛都から重慶に向かう高鉄の車窓、沿線には廃墟と化した集落、荒れた家屋や畑が延々と続き、一方、彼方に見えるのは高層住宅群。あまりにも早い変化のスピードに翻弄されている人たちもいるのだろうと、複雑な気持ちを覚えました。それでも、ホテル前の公園で太極拳、気功、ダンスなどで集うグループがいくつもあり、ショッピングモールでは、中高年の女性が民族舞踊やフラダンス

の発表会をしていたりと、たくましく暮らし、人生を楽しんでいる様子に安堵もしました。

目を覚ました「眠れる獅子」のこれからの更なる変化を、年齢に負けず自分の眼で見たい。また中国にいけるかな？ などと思う日々です。

（望月英子）

ハイライトは四川外国語大学での交流



重慶抗戦遺跡博物館から重慶市街地を遠望

中国の人々の活気と街の賑わいに圧倒されっ放しの 4 泊 5 日でしたが、とても楽しく、また刺激がいっぱいの記憶に残る旅となりました。これも添乗の沈雪軍さん、現地ガイド・盛都の張小素さん、重慶の漆曉笛さん、そして、企画・コーディネートにご尽力いただいた尾崎明子さんのおかげと感謝。平岡先生もお疲れ様でした。

持ち帰った感想や印象深い出来事は山ほどですが、いくつかピックアップ。まず三国志の英雄を祀った武侯祠での張さんの解説が、熱量と知識量でハンパじゃなかった。蜀の都だった盛都に暮らす人たちが、どれほど

三国志を愛し、誇りに思っているか、びしびしと伝わる語り口と内容でした。武侯祠は再訪ですが、さらりと回っただけの前回の薄めの印象は一変、ガイドの力はさすがだと思いました。そうそう、武侯祠見学を終えた後、入り口前で集合待ちをしていたら、直ぐ横で子連れの子夫婦が喧嘩を始めたのです。喧嘩といっても大声でなじりまくっているのは女性の方で、夫らしき男性はサンドバック状態。30 分も続いていたのでしょうか。わさわざ、こんな公衆の面前でやらずとも思っただけですが、帰国後、中国通の知り合いにその話をしたら、自分の正しさを周囲に向かって声高にア

ピールするのは中国ではふつうにあることとか。そんなものと妙に納得。

日本軍無差別爆撃の被害者に対し謝罪も補償もしていない国の人間としては、重慶を訪れることに、ちょっと臆するところもありましたが、それでも息を切らしながら坂と階段の街を堪能。極めつけは、市街地を見下ろす高台に築かれた蒋介石の司令部と居宅の跡



四川外国語大学で日本語学院のみなさんと交流

(重慶抗戦遺跡博物館) です。そこも爆撃に遭

い犠牲者も出たようですが、ここでの蒋介石の特権的な生活と、爆撃にほとんど無防備でさらされた重慶市民の戦時下の日常とは、ずいぶん距離があっただろうと、急な階段を上り下りしながら考えたことでした。この距離感は、国共内戦で国民党軍が敗走したこととも関係がありそう。まあ、「個人の感想」ですが。



汗が噴き出す本場カラウマ麻婆豆腐

そして今回の旅のハイライト、わたし的には何ととっても四川外国語大学での日本語を学ぶみなさんとの交流です。応対していただいたのは、日本語学院・大学院生の岳俊吉さん。じつは、中国語の素養が皆無なうえ、交流のイメージがいまひとつ掴めずにいた身としては、いささか緊張気味に臨んだ場でしたが、それを察してか岳さんは、しっかりした日本語を駆使した積極的な話題づくりで対話をリード。時に筆談も交えながら（やはり漢字は便利）互いの関心や近況のやりとりで交流は思いのほか盛り上がり、気がつけば「そろそろ終了」を告げる司会の方の声。とりわけ感心したのは、岳さんが将来の目標をきちんと見定め、その実現にむけた準備を着実に進めていること。行き当たりばったりで過ごした私の学生時代とは大違いです。

最後に、辛くても辛くなくても、四川の料理はみんな感動的に美味しかった。ごちそうさまでした。

(望月信光)

爆撃被害者の証言のこと等 神奈川高教シニア 藤島政彦

コロナ禍中断し昨年は催行人員に達せず実現出来なかった東アジア研修旅行、6年ぶりの実施で心待ちにして参加しました。盛り沢山の訪問箇所から、メインの重慶での爆撃被害者の証言の聞き取りの部分の感想を書くことにします。尚今回事前に「日中戦争前史 上下」「重慶爆撃とは何だったのか」(共に高文研刊)を再読して臨みましたが、後者は残念ながら品切れ状態ですが、重慶爆撃訴訟の経過や被害者の証言も出ていてとても参考になりました。

4日目4人の爆撃被害者にお越しいただき証言を聞きました。最後に証言された女性は爆撃で両親が殺され本人も頭部に弾片が残り後遺症に今でも悩まされている方でした。女性は過去の辛い体験をからか証言の途中気持ちが高ぶり通訳がしにくい状態になりました。ただそうなったのは我々が非戦と日中交流の意思を持った集団であってかつてここ重慶で無辜の民を殺戮しその罪の償いも謝罪もしないままできた日本(人)の顔をした集団であったことも遠因かもしれないと思いました。尚、今回証言された元重慶爆撃訴訟原告団長の栗さんは11月沖縄に招かれ証言集会の後読谷の彫刻家金城実さんの「重慶爆撃」のレリーフ作りに参加されその完成を見届けられました。私も2年前に金城さんのアトリエ訪問したことがあります。是非来年10月予定されている渡嘉敷島の軍隊「慰安」婦追悼式参加の途中訪問したいと思っています。

ゲルニカに対しては1997年ドイツ大統領が謝罪をし町として正式に受け入れました。一方最近取り消しを求める声も出て話題になりましたが、東京大空襲の司令官カーチスルメイには勲章を贈った日本、それはアジアを蔑ろにしながらアメリカに隷属する歪んだ体外構造が連綿と続いていることの象徴かと思います。

今回が日退教東アジア研修旅行最後になるはずでしたが今回の参加者の意向と前回まで添乗いただいた尾崎さんのご好意で差し当たり来年も実施の見込みができました。日中共同声明を逸脱した高市国会答弁以降日中関係険悪化していますが、こういう状況だからこそ添乗頂いた沈さんの言葉、「普通の人と人との交流」で「憎しみや偏見」を取り除くためにも東アジア研修旅行できるだけ長く続いてほしいと思っています。今回ご一緒した皆さんありがとうございました。私も微力ながら歪んだ体外構造変えていくために頑張りたいと思っています。

皆さま全員無事帰国！

この度、日退教の皆様とご一緒に中国四川省の研修の旅ができて大変感無量で、心まで強く打たれました。

消え去っていく戦争の記録に照らしながら、新たな時代が到来しようという今日、普通の人と人の真の交流こそ、憎しみや偏見または誤解を取り除く最良の方法です。

先生の方々が、これからもお体を丈夫にして、その使命を全うしてできることを、わたくしは信じています。

旅の中、いろいろと気の行き届かないところが沢山あったかと思います。何卒お許しください。

最後に、皆様、お元気で毎日を過ごしてくださいね。心よりご健闘を祈っています。

沈雪軍より

参加者

	名前	JASSPORT 記載名		居住地	
1	柏俣 廣行	KASHIMAT HIROYUKI	M	186-0003 東京都国立市富士見台	
2	小池美樹男	KOIKE MIKIO	M	373-0018 群馬県太田市丸山町	
3	望月 信光	MOTIZUKI NOBUMITSU	M	114-0004 東京都北区堀船	
4	望月 英子	MOCHIZUKI EIKO	F	114-0004 東京都北区堀船	
5	澤崎 鐵子	SAWAZAKI TETSUKO	F	252-0801 神奈川県藤沢市長後	
6	吉田 悠子	YOSHIDA YUKO	F	970-1145 福島県いわき市好間町北好間字上野	
7	藤島 政彦	FUJISHIMA MASAHIKO	M	223-0058 神奈川県横浜市港北区新吉田東	
8	大石由記子	OISHI YUKIKO	F	669-1546 兵庫県三田市弥生が丘	
9	藤見 睦彦	FUJIMII MUTSUHIKO	M	252-0021 神奈川県座間市緑ヶ丘	
10	樋浦 敬子	HIURA TAKAKO	F	251-0032 神奈川県藤沢市片瀬 360-	
11	宝蔵もと子	HOZO MOTOKO	F	899-5231 鹿児島県姶良市加治木町反土	
12	平岡 良久	HIRAOKA YOSHIIHISA	M	195-0053 東京都町田市能ヶ谷	
13	沈雪軍	SHEN XUEJUN	M		